

(別紙2)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 2年 10月 12日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000453		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	スイート帝塚山		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市住吉区帝塚山東5丁目13番8号		
自己評価作成日	令和 2年 10月 12日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

### 【事業所基本情報】

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2792000453-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2792000453-00&ServiceCd=320)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟9階
訪問調査日	令和2年10月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【食】自宅での奥様や嬢様と同じように作っています。  
味はもちろん、見た目にも喜んでいただけるような工夫をしています。  
入居者様に調理や盛り付けを手伝っていただく、季節に応じたメニューや味付けをし、充実した食生活を支援します。食事は大切な生活の柱です。一緒に満足して楽しんでいただけます。  
【楽】レクリエーションや体操、個人を尊重した楽しみ方を支援します。  
レクリエーションを通して「人」と協力する楽しさや、若いころの趣味を思い出して取り組む楽しさ。お一人ではできないことを、職員がお手伝いします。施設内で園芸活動をしたり花や植物に触れ合っていたり、施設内だけでなく外出する機会もご用意しています。  
【快】「タフティサポート」の経験に基づく「暮らしやすい」を実現。  
「心地よい」は人それぞれ違うものです。スイート帝塚山では認知症の方でもその方らしさを最大限尊重し、落ち着いて生活できるように支援しています。入居者様の好みや、これまで過ごしてこられた生活を大事にした時間を提供いたします。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

当該施設は、南海住吉東駅にほど近く、近隣には住吉大社のある環境に位置している。  
開設1年の事業所であるが、地域との関係性を早く築けるようにと、事業所の取り組みを地域に発信し続けることを心掛けている。  
自分でできることは自分で行い、自立を促し、日常生活の中で認知症の進行を緩やかにすることを支援し、多彩なレクリエーションを毎日開催している。また、味や見た目にもこだわった手作りの食事に重きを置き、「おもてなしの心」で介護サービスを提供している。

スイート帝塚山 ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<b>法人理念を入職時の新人研修で説明を行い落とし込んでいます。</b>	チームケアを重視した法人理念を職員の名札裏に記載し、職員が常に意識できるようにしている。馴れ親しんだ街や家庭的な雰囲気の中で入居者が自分らしく誇りをもって暮らしていけるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設より1年未満とコロナウィルスの感染拡大防止による自粛活動を行っている為、地域包括支援センターとの連携は行えていたが、地域との交流が進んでいない。	開設1年のため、地域との関係性を早く築けるようにと、事業所の取り組みを地域に発信し続けることに努めている。	地域活動協議会なども連携し、事業所の存在を自然と地域に根付かせるように努めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設時はホームの見学を中心にグループホームの活動や認知症の方への支援方法等を伝えていたが、コロナウィルスの感染拡大防止による自粛活動を行っている為、現在は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設より2ヶ月に1回開催し計4回行っているがその内2回はコロナウィルスの拡大防止の為、書面開催で対応しています。	現在はコロナの影響で書面実施であるが、地域包括や入居者家族だけでなく、薬局や医師、歯科医師の意見も取り入れて運営に活かしている。	今後、地域の民生委員や自治会代表にも参加していただけるように体制づくりに取り組んでいただきたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	<b>運営推進会議の書面開催の後の報告や変更内容や法令等に関する件で質疑応答を行っている。</b>	わからないことを質問するなど、市の担当者とは連携を図れている。加算の算定根拠を確認し、正しく請求することで入居者のケアに活かすことができる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	<b>毎月の身体拘束廃止委員会を行い現状の確認と今後の取り組みや勉強会等を行っている。</b>	生命保護を第一に、職員が医師や家族と連携しながら、重度化する入居者に対しても、身体拘束のないケアの実践を心がけている。3ヶ月に1回の開催が義務付けられている身体拘束検討委員会を毎月の細やかなタイミングで行っている。	身体拘束検討委員会を隔月で運営推進会議を活用して実施し、地域包括や医師等の専門家の意見を取り入れることも有意義であると思われる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<b>身体拘束廃止委員会と合わせて、対応の振り返りや勉強会を行っている。</b>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<b>日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、研修を通して内容の理解に努めている。</b>		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族様等に采死いただき時間を掛けて契約等の説明を行っている。開設後はまだ改定が行われていないので対応していない。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の書面開催の後の報告や変更内容や法令等に関する件で質疑応答を行っている。</p>	<p>コロナ禍で運営推進会議が開催できず、書面開催しているが、運営推進会議前に参加者へアンケートを送付し、意見を共有している。</p>	<p>運営推進会議前のアンケートは、コロナ後も続けていただくことで、欠席者の意見反映にもつながると期待できる。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者がホーム全体の会議で意見を吸い上げ、法人の会議で報告しその後には繋げている。</p>	<p>日々の業務の中で、お互いに意見が言い合える関係が構築されている。管理者は、入居者だけでなく職員個々の顔色をよく観察し、必要に応じて随時面談を行っている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>自己啓発が出来るよう法人で年間研修計画を立て、個々で参加したい研修に参加していただいている。その際は、参加出来るように勤務の調整を行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で行っている年間の研修に各職員の必要と思われる研修や希望する研修にスケジュール調整を行い参加している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>住吉区地域密着型サービス事業者連絡会へ参加の予定ではあったが、コロナ禍の為参加できていない。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談にて生活・身体・精神等の状況を確認しニーズの把握に努めている。又、不安に感じている事を引き出し、ホームでの対応を説明している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホーム見学の際に現状と不安に感じている事の聞き取りを行い、サービスでの対応を説明している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の情報からニーズを把握し職員間でニーズの共有している。又、事前に各事業所へ情報を提供している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・掃除・洗濯等の家事へ、その時々に応じた希望者の参加、又は促しによる参加で、介護される一方の立場にならないよう支援している。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の生活の状況を面会時や電話連絡の際に報告している。又、2ヶ月に1回お便りによる現状報告を行っている。コロナ禍より現在WEB面談と予約のよる面会を行っている。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方へハガキを送られたり、携帯電話でご連絡するなどの際に投函や電話連絡の補助を行っている。	地域に密着した事業所として、入居者の友人や知人等、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍でもWeb面会を実施し、関係継続を支援しようと奮闘している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事やレクに参加して頂き、孤立しない馴染みの関係になれるように支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じてご連絡し現状把握に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に希望の聞き取りを行っている。普段から本人の言動に注意しニーズ把握、その情報を職員間で共有している。	普段のケアの中で知ったことや気づいたことをすぐに今後の支援に反映させ、職員間で共有し、入居者の想いに寄り添っている。 事業所での様々なイベントでの機会を活用し、入居者の願いや望みを把握しながら、入居者のなりたい自分を引き出して頂き、それをケアプランに反映されていることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時に本人様、家族様、利用している事業所からの情報を支援内容に反映出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を生活記録用紙に記録し、その内容を職員間で情報共有している。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の実施状況を生活記録にて確認している。NSの意見や定期的なカンファレンスで介護職員の意見を取り入れプランの見直しを行っている。家族様へプランの説明を行いその際や面談時に意見や希望を伺っている。	ケアプランを見ると、アセスメントがしっかりとできており、意向が反映されている。実際も、入居者一人ひとりの状態に寄り添った、プラン以上のケアができています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録へ日々の状態やプラン実施時の内容を記載し、職員間の情報共有している。又、プラン再作成時にも記録を確認し活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科による口腔衛生管理、往診、訪問看護による健康管理のサービスを利用いただいている。又、必要に応じて訪問看護、Dr等から助言を貰っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣でに近くの生根神社(氏神)へお参りして頂いている。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に同意もとホーム協力医療機関を利用いただいている。希望や必要時に他の医療機関へ柔軟に対応している。	協力医療機関と密接に連携をとり、定期的な主治医の往診があるため、入居者や家族だけでなく職員の安心も得られている。主治医の専門外の医療機関へも適切に受診できるよう支援している。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週3.5日の看護師の配置と週1回の訪問看護にて健康管理を行っている。気になることはその都度看護師と連携し助言を頂いている。又、医療機関のとの連携は配置看護を中心にしている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に主治医からの紹介状、介護サマリー等で情報を医療機関へ提供している。退院前には、家族様、医療機関からの得た情報と面会へ出向いた際に得た情報を基にニーズを把握しホームでの生活にスムーズに移行出来るように対応している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に提供できる医療の範囲と終末期の対応を指針をもとに説明し、今後の対応の確認を行っている。又、状態の低下時には家族様へ報告し今後の対応説明と同意を得ている。</p>	<p>重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、入居者や家族の希望に基づいたケアが実践できている。かかりつけ医とも連携が取れ、より幅広い対応を心掛けている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルに沿って対応が行えるよう普段から閲覧できるようにしている。又、事故後には、カンファレンスを行い対応の見直し、その後の対応に活かしている。普段からその都度ヒヤリハットの報告を行っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自主訓練を1度行っているが、<b>コロナウイルスの感染予防の影響により立ち合いによる訓練が行えていない。</b></p>	<p>年2回、火災を想定した訓練を消防立ち合いのもと行っていく。入居者の災害時の対応も職員間で共有できている。</p>	<p>日中と夜間を想定した訓練を交互に実践してみてもどうか。運営推進会議等で実施を投げかけることにより、地域との協力体制もさらに図っていけると思われる。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格をふまえ、支援を行う際は、プライバシーを配慮した声掛けや対応を行っている。	入居者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、ご本人の希望等を引き出すように心がけている。日々の暮らしの中で自己決定ができる場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時のご本人の気持ちを尊重するように心がけている。行事等の行う際は、一人ひとりに希望を伺うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際は、浴衣を着て頂いたり、化粧などでおしゃれを楽しんで頂ける様に取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を聞き取り献立を作成する時もある。施設の育てた野菜を食材に使用することもある。職員と一緒に食事をしている。	日々のメニューも栄養管理の行き届いた食事を、味や見た目にもこだわり、温かいいものは温かく、冷たいものは冷たく提供している。食材は彩りや旬のものを取り入れ、季節を感じながら日々楽しめる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量や形態は一人ひとりに合わせて提供している。水分量を確認し少ない方は声掛けをしこまめに提供。また、摂取量が少ない方に味を変える等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きやうがいをしていただいている。口腔内の状況も出来る限り確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時誘導や要望時に応じて支援を行っている。排泄チェック表や生活記録から排泄パターンを把握。プライバシーを損なわないように個々にあった声掛けを行うように心掛けている。	入居者ごとに排泄パターンを把握し、時間管理を行い、できる限り自立を促せるよう、細やかな支援を行っている。	自立を維持できるよう、骨盤底筋体操を取り入れてみてはどうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し必要な便秘剤をDrの指示のもと服用していただいている。牛乳や飲むヨーグルト等を定期的に提供し自然な排泄を促している。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限り、タイミングや希望に添った入浴ができるように努めているが、人員配置に限りがある為全ての希望に添えていない。	原則は週2回の入浴であるが、発汗や失禁のある場合には、臨機応変にシャワーや清拭を行い、入居者が清潔で気持ちのよい生活ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は個々に合わせて声掛けをし支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットや服薬チェックは、二重チェックを行っている。薬の変更時は連絡ノートに記入し周知をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、玄関の掃除、お膳拭き等の家事や、塗り絵、貼り絵やトランプ、かるた等のカードゲーム楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの感染予防の為外出は控えている。希望があればデッキに出て頂き散歩をして頂くように努めている。	コロナ禍で外出を控えていたが、近隣の散歩は再開したいと考えている。外出できないときにも、中庭で外気浴や植木の水やり、夏場は花火など、外の空気に触れる機会を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと落ち着かない利用者様には、家族様に紛失する可能性があることを説明し所持頂いている。必要なものは立替か家族様に用意していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話で家族様や知人に連絡されている方もいる。ハガキでのやり取りを希望されている方には、投函の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に掃除を行い清潔を保つように努めている。また、季節ごとの作品を入居者様と作成し飾っている。	共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾や入居者が作成した作品を掲示している。食事のテーブルは場所が決められており、利用者が「自分の席」を意識できる。	



53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにソファを置きくつろげるようにしている。又、食席でテレビを観られたり、馴染みの入居者の方と談話をしてくつろがれている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みものを持参し頂き自宅での生活を同じように本人が安心して過ごせるよう配慮している。</p>	<p>入居者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第二の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様一人ひとりが自室を分かるように、扉に大きく表札を設置したり安全に移動が出来るよう廊下、トイレ、浴室に手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>